

第3回 JR可部線活性化協議会

説明資料

JR可部線活性化協議会

目 次

1.JR可部線活性化協議会について	2
2.広島市の交通政策の方向性	8
3.JR可部線の概要	17
4.各駅の現況	22
5.駅前広場・駐輪場の現況	36
6.JR可部線の沿線の状況	43
7.JR可部線の沿線のまちづくり	55
8.その他関連施策	58
9.アンケート調査について	62

1. JR可部線活性化協議会について

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

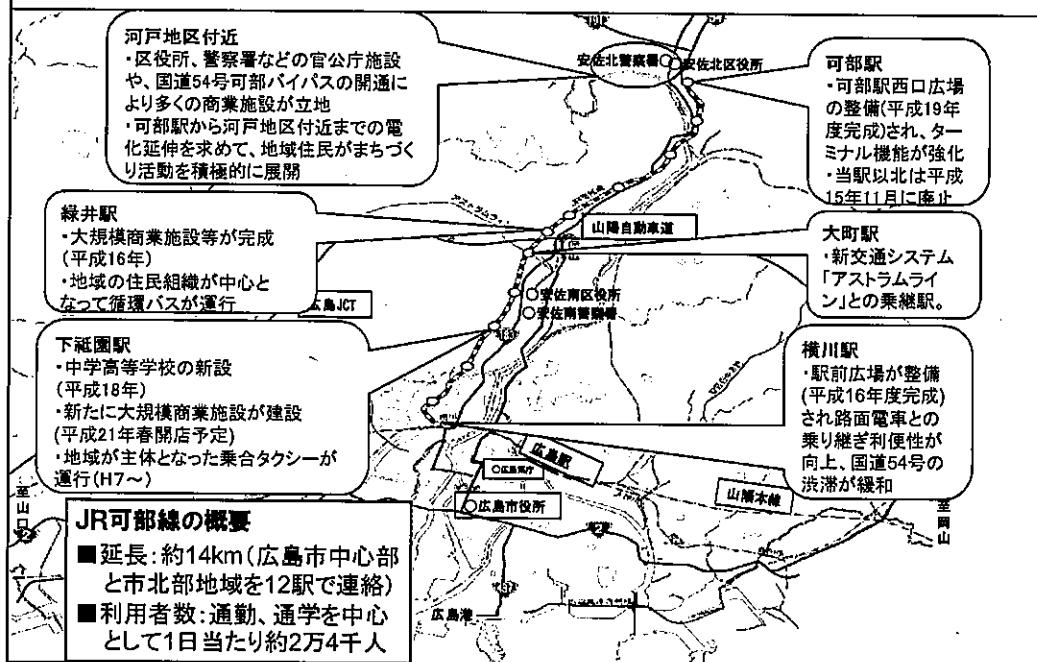
頑張る地域への国の支援

The diagram illustrates the support provided by the government for regional revitalization projects. It shows two main components:

- Regional Public Transport Revitalization and Regeneration Project**: This project aims to achieve the following goals:
 - Establishment of a local public transport system that is convenient for residents and visitors.
 - Development of a local economy based on tourism and other sectors.
 - Improvement of the quality of life for residents.
 - Creation of a safe and comfortable environment for all users.
- New Business System Support**: This support includes:
 - Establishment of a new business system.
 - Introduction of new business models.
 - Promotion of new business development.
 - Support for new business implementation.

A large arrow points from the 'Regional Public Transport Revitalization and Regeneration Project' towards the 'New Business System Support' section, indicating that the former provides the context or foundation for the latter's implementation.

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料



第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

JR可部線とその沿線の課題

公共交通機関の利用者が伸び悩むなか、JR可部線が地域の公共交通機関として引き続きその役割を果たすことができるよう、JR可部線沿線の開発の動向や市、沿線住民のまちづくり活動なども踏まえ、JR可部線を中心としたまちづくりを進め、今後ともこうした活動が継続し、発展できるよう関係者が連携し取り組みを強化することが重要となっている。

そのためには、人にやさしい交通環境づくりを進める必要があり、パークアンドライド等、駅へのアクセスの改善や乗り継ぎ利便性の向上を図るなど、市民や来訪者が移動しやすい環境を整える必要がある。

さらに、河戸地区を含む可部地区は、本市北部エリアの地域拠点であり、拠点性の向上を図る必要がある。このため、JR可部線を活性化することは極めて重要であり、河戸地区付近と可部駅の連絡を強化する必要がある。

また現在、このJR可部線(単線)のピーク時運行間隔は、横川駅から緑井駅間で10分、緑井駅から可部駅までが20分というサービス水準に格差があり、今後、一層の公共交通サービスの向上を図る必要がある。

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

協議会の目的

JR可部線の活性化を図るために、事業者や行政だけでなく、公共交通の利用者であり、沿線のまちづくりの主体である市民が一体となって地域の課題として捉え、連携しながら取り組むことが重要である。こうした認識のもと、JR可部線活性化協議会では、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、JR可部線の活性化に向けた地域公共交通総合連携計画策定のため、新たな交通ビジョン等を踏まえ、可部線の利用者増加や沿線のまちづくりにつながる施策の展開の可能性、事業成立の要件等について調査・検討を行うものである。

調査の概要

○沿線現況の把握

活性化策の検討にあたって基礎資料となる可部線沿線の人口、土地利用、交通の状況等の把握を行う。

○活性化策の検討

・活性化策の検討 可部線の利用者増加や地域のまちづくりにつながるハード・ソフト両面の活性化策の検討を行う。

・設備計画等の検討 活性化策の展開に必要となる設備計画を検討し、経費、概算事業費の算定を行う。

○事業評価

上記の検討を踏まえ、収支見込みを算出するとともに、費用便益分析について検討を行う。

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

協議会委員

団体・所属

職名

西日本旅客鉄道株式会社 広島支社 企画課長

広島電鉄株式会社 総合企画グループマネージャー
バスカンパニーバス企画グループ

営業企画チームリーダー

広島交通株式会社 営業部 業務課長

道路交通局 都市交通部長

道路交通局 交通円滑化推進担当課長

道路交通局 都市交通部交通対策担当課長

安佐南区市民部 区政振興課長

安佐北区市民部 区政振興課長

オブザーバー

団体・所属

職名

国土交通省

中国運輸局 企画観光部 交通企画課長

中国運輸局 鉄道部 計画課長

2. 広島市の交通政策の方向性

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

【広島市の概要】 H19年現在

面積 905.13km²(広島県の面積8478.52km²の11%) [H17.4.25湯来町162.87 km²合併含む]
人口 約116万6千人

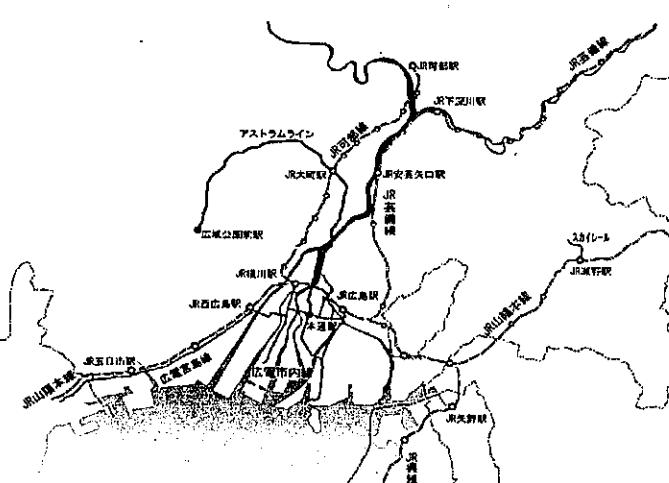
【公共交通の現況】

広島市における公共交通の現況		
区分	営業延長 (km)	乗車人員 (千人/日)
鉄軌道系 計	133.8	365
JR在来線(市内分)	87.5	172
広島電鉄宮島線 (市内分)	8.0	37
路面電車	19.0	107
アストラムライン	18.4	49
路線バス	1,378.3	181

注1：営業延長は、平成20年(2008年)4月現在のデータ。

注2：乗車人員は、平成18年度(2006年度)の1日当たり平均乗車人員。

注 3: JR在来線の市内分には府中町(向洋駅)、海田町(海田市駅)を除き、旅客のみを計上。



第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

【新たな交通ビジョンの策定】

社会経済情勢の変化や、広島市の交通課題を踏まえ、これまでの交通政策を再構築 H16(2004)年6月策定

新たな交通ビジョン

～これからの交通政策の理念とカタチをよくべき施策の方向性～

平成16年(2004年)6月
広島市

【広島市の交通課題】

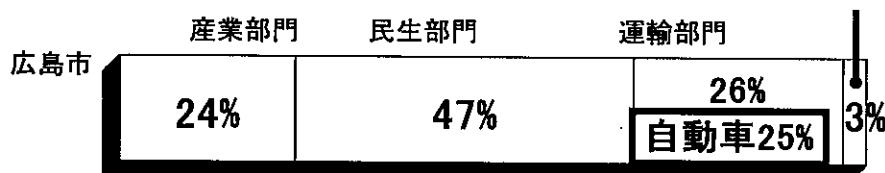
- (1)交通分野における環境負荷の低減
- (2)高齢社会や地域に対応した交通環境づくり
- (3)日常的な交通のマイカー依存の是正
- (4)円滑な経済活動を確保する交通基盤の整備
- (5)都市の魅力づくりへの貢献
- (6)更なる投資の重点化とストックの有効活用

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

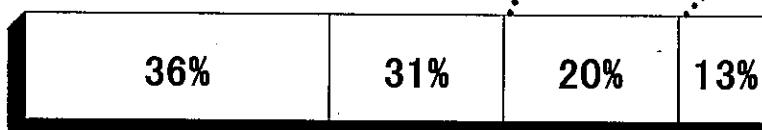
(1)交通分野における環境負荷の低減

【部門別温室効果ガス排出割合(2004年度)】

その他



全 国



注) 全国値は、二酸化炭素の排出割合

資料)広島市環境局、環境省HPより作成

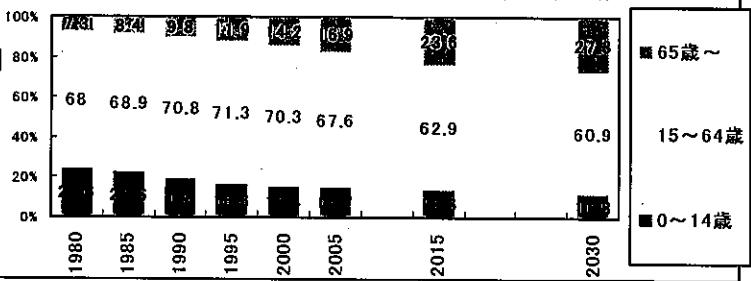
第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

(2)高齢社会や地域に対応した交通環境づくり

【人口の推移】



【年齢別構成比の推移】

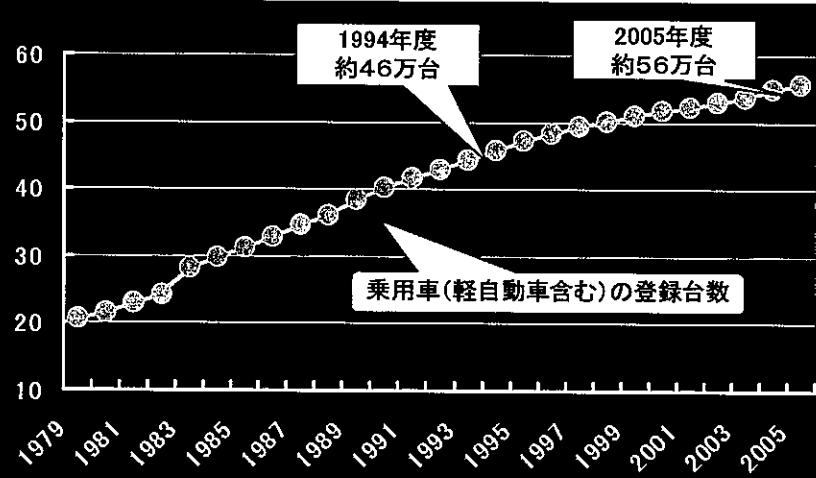


※2005年4月に合併した
旧湯来町を除く

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

(3)日常的な交通のマイカー依存のは正

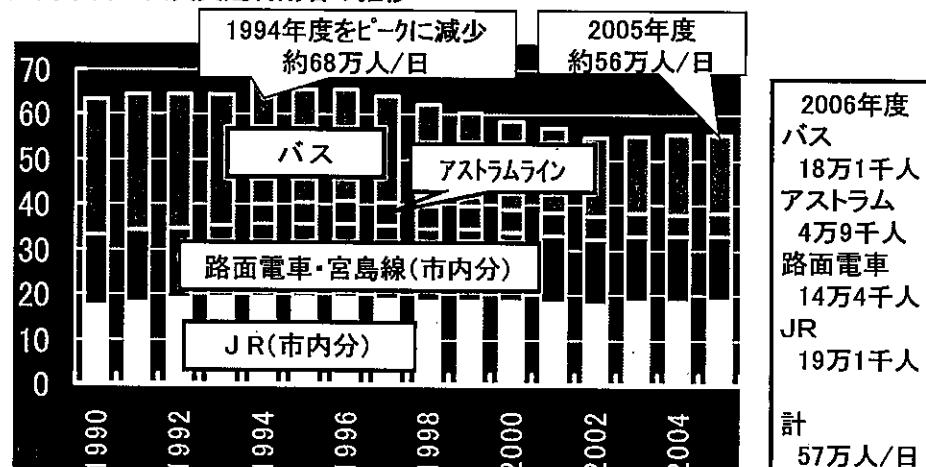
【乗用車登録台数の推移(広島市分)】



資料)中国運輸局広島陸運支局、広島市統計書

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

広島市内の公共交通利用者の推移



資料)広島市統計書

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

これからの交通政策の理念

『ひと・環境にやさしく、活力ある広島の交通体系づくりをめざして』

- 自動車に過度に依存する交通体系を見直し、交通体系の軸足を公共交通へシフト
- 人が中心の、環境にやさしい都市づくりをめざす
- 都市の魅力を高める交通体系づくりをめざす

施策コンセプト1

都市の活性化や
都市生活の快適化に貢献
する交通へ

施策コンセプト2

都市の魅力づくりに貢献
する交通へ

施策コンセプト3

都市経営の効率化に貢献
する交通へ

- ①公共交通の「生活インフラ」としての充実・強化

- ②高速性・定時性を備えた「経済インフラの整備」

- ③人にやさしい交通環境の整備

- ①「行きよい」都心づくりのための交通

- ②都心の回遊性・賑わいを創出する交通

- ①交通需要マネジメントの重視

- ②使う視点の重視
(既存ストックの有効活用)

- ③民間活力の重視
(事業者の能力を最大限活用)

施
策
コン
セ
プ
ト

力点を置くべき施策の
方向性

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

具体的な取組

ビジョンの理念と方向性を実現するための具体的な施策を盛り込んだ、「交通ビジョン推進プログラム(2005-2007)」を取りまとめた。(平成17年(2005年)7月策定)

現在、プログラムの
更新作業中

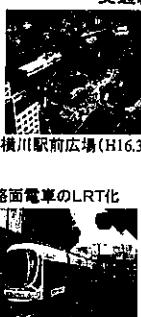
公共交通の「生活インフラ」としての充実・強化

- 公共交通網の機能強化
- 公共交通サービスの一層のレベルアップ
- 公共交通サービスのシームレス化の推進

在来線輸送改善



交通結節点の改善



可部駅西口広場(H19.12完成)



ICカードの導入



路面電車のLRT化

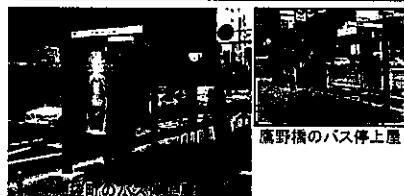


急行バスの運行拡大

交通需要マネジメントの重視



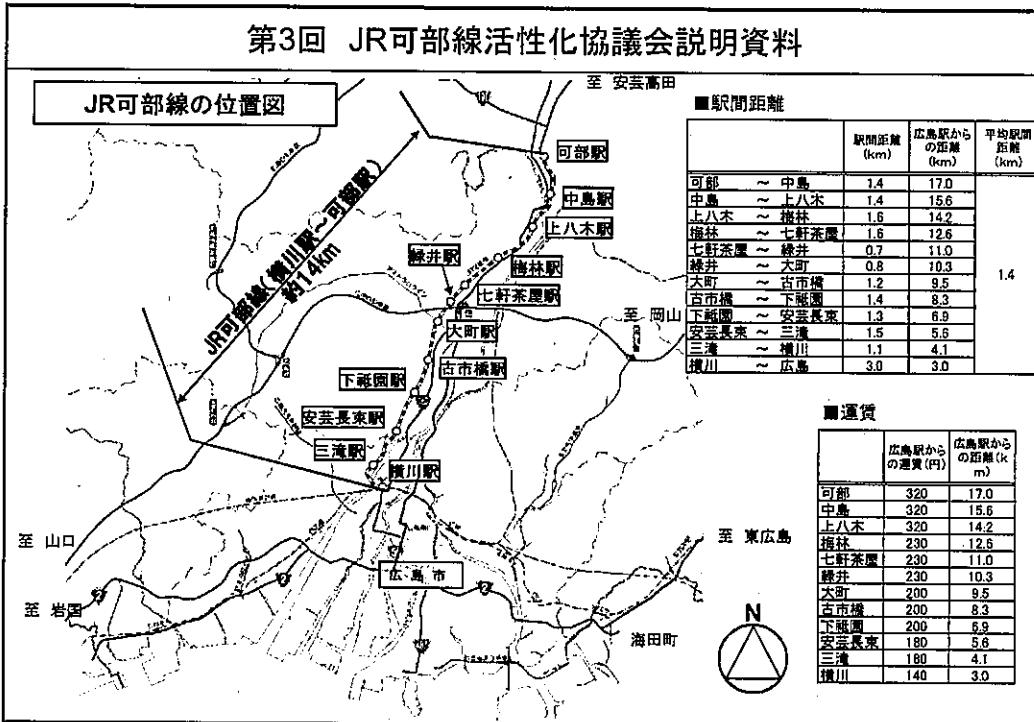
民間活力の重視



高野橋のバス停上屋

3. JR可部線の概要

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料



第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

JR可部線の歴史

- 1896年(明治29年)12月 加計村住民らが、広島から加計を経て浜田(浜田市)までの鉄道の敷設願いを政府に提出。
- 1909年(明治42年)11月 大日本軌道が横川(広島市西区)―古市橋(安佐南区)間で営業開始。
- 11年(明治44年)7月 可部(安佐北区)まで開通。
- 19年(大正8年)2月 大日本軌道が可部軌道に路線を譲渡。
- 26年(昭和元年)2月 広島電気が可部軌道を合併。
- 30年(昭和5年)1月 横川―可部間が電化。
- 31年(昭和6年)5月 広島電気が広浜鉄道に路線を譲渡。



1970年当時(大毛寺川鉄橋を渡る)

資料、「中国新聞ホームページ(可部線のあゆみ)」など

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

36年(昭和11年)9月 国が路線を国有化。
 11月 安芸飯室(同)まで開通。
 46年(昭和21年)8月 布(同)まで開通。
 54年(昭和29年)3月 加計まで開通。
 69年(昭和45年)7月 三段峡(戸河内町)まで開通。
 87年(昭和62年)4月 旧国鉄が民営化され、JR西日本に移行。
 2003年(平成15年)12月 可部～三段峡間(46・2キロ)を廃止。
 04年(平成16年)3月 JR横川駅 駅前広場完成。
 06年(平成18年)7月 可部鉄道部廃止により、西日本旅客鉄道広島支社の管轄路線となる。
 07年(平成19年)12月 JR可部駅 駅西口広場完成。

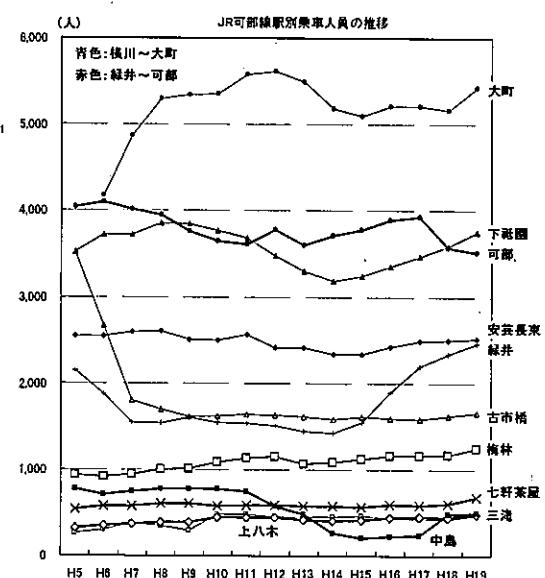
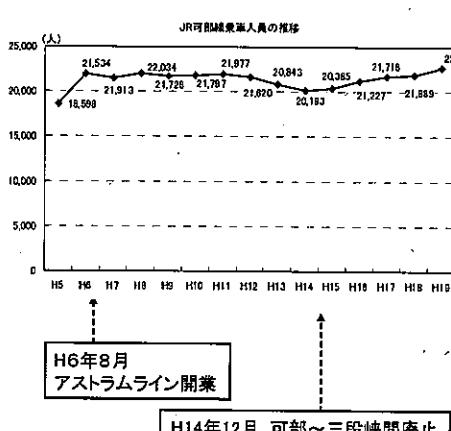


資料:「中国新聞ホームページ(可部線のあゆみ)」など

可部駅西口広場

第3回 JR可部線活性化協議会説明資料

JR可部線の乗車人員



横川駅を除く乗車人員を集計した。